

# 英語フォニックス指導および読み書き障害児に対する英語指導法

## 参考文献

- 『読み書き障害(ディスレクシア)のすべて』(Sally Shaywitz, PHP)、  
『ディスレクシアの素顔』(玉永公子、論創社)  
『Let's Study English -発音から文字へ』(松香フォニックス研究所)

## 1. 英語圏における英単語の体系的な指導法

- ① 音素認識—話し言葉は分解できること、そして単語が非常に小さな単位から成立っていることと理解することからスタート。この小さな単位は音素と呼ばれており、言葉に関するこの理解の発達を音素認識という。話し言葉は識別可能な音に分解できる—これがわかれば、読み言葉の記号体系は習得できる。
- ② フォニックス—文字や、文字の集まりが、話し言葉の音をどのように表しているか。
- ③ デコーディング—印刷された文字とその発音の結びつきを理解する、書き言葉の記号体系の段階。文字と文字が示す音との関係を、その音をつなげて読めば言葉になることを理解する。そうすると、文字と音を関係付けるための知識を当てはめて、知らない言葉を分析して読めるようになる。これが、デコーディングといわれるプロセスである。
- ④ 綴り
- ⑤ 語彙と概念
- ⑥ 読解の手法
- ⑦ 流暢に読むためのトレーニング (後で説明あり)
- ⑧ 豊富な言語体験—物語を聞いたり、それについて話したり、読んだりすること

## 2. フォニックスとは

英語をはじめて学ぶ多くの日本人の児童にとって、子音と母音の組み合わせにより構成されるローマ字の学習が一つの障害になることがある。身に付けたローマ字の知識が、英語の発音の正しい習得を邪魔するのである。子音の後に母音入れてしまう癖がぬけず、日本人の発音がなかなか通じにくいのもローマ字の影響があるといえよう。また、アルファベットとしての abc とそれらが単語に現れてきた時の音が違うために混同してしまうことも多い。フォニックス学習とは、英単語の構成と発音の関係を体系的に学ぶものである。フォニックスを早い段階で身につけた子は、新出単語に出会っても苦労せずに読み進めることが出来る。

## 3. フォニックス指導法

(注: word で発音記号を表示できないものについてはカタカナ標記をしています。厳密にはカタカナでは正しく表現しきれないものであることに注意ください。)

### 導入

まず、フラッシュカードやジェスチャーなどを使用して、アルファベットと単語で使われるときの音が違うことを気づかせる作業を行う。

## フラッシュカードの使用

- ・生徒の期待を誘いながらカードを裏返す

(例) G g → goat

- ・ジェスチャーを交えて身体で覚えさせる。動作と共にすることで記憶を促進する。

b [b バッ]---- ball をはねるようなジェスチャー

h [h ハッ]---- 息を吐く ジェスチャー

c [k クッ]---- cute なポーズ

- ・同じ音から始まる2語を繰り返していうほうが覚えやすい

(例) angry alligator

happy horse

- ・アルファベツを一字ずつ発音し、組み合わせる

(例) g [g], u [ʌ], m [m] → gggggg u mmmm で gum, d, o, g → ddddd oooo g で dog

m, a, p → mmmm aaa p で map

正しい組み合わせの単語のピクチャーをすぐ見せる

- ・ fan, dog, cake の絵カードを見せ、d の音で始まるものを選ばせる。
- ・ dog の絵を指して読んだ後、部屋の中で他に d で始まるものはないか聞いてみる。

## 練習

アルファベットカードで (アルファベット 26 文字を一つずつ書いた小さなカード)



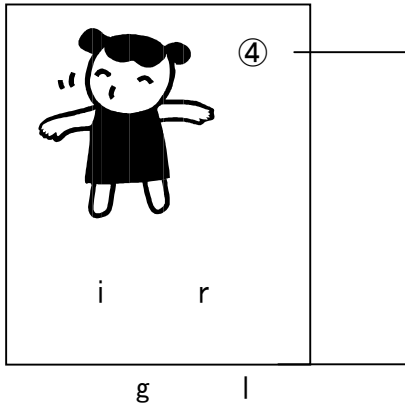
- 講師が g [g], u [ʌ], m [m] と一つずつ発音し、生徒が gum とカードをあわせる。
- 4 人一組で単語を作り、発音させる。ちゃんとした英単語が出来れば得点がもらえるので、グループで競わせる。
- 4 人一組。先生が pen と発音し、生徒がカードで単語を性格に組み合わせる。頭に手を置き go の合図でいっせいに始める。

## テキスト

テキストの絵をかくして単語を発音させる。

レベルアップ

・絵カードで



4文字であることを示す

発音

これを組み合わせて、絵に会う単語を作り、  
させる

・ペアで。一人の子が単語を聞き取り、ペアの子に伝える。

・文章の中で、その日学んだフォニックスを見つける（文章を読むことではなく、スキミングの練習）

慣れてきたら文章を読む。

#### 4. フォニックスの規則

アルファベットと音

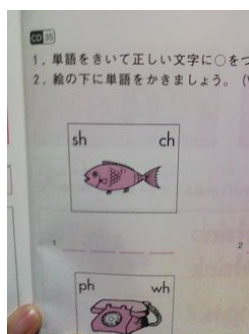
- A a あごを下げて
- B b 口を閉じてから
- C c 口の奥から
- D d 舌を歯ぐきに
- E e にっこり笑って
- F f くちびるをかんで
- G g 口の奥から
- H h のどの奥から
- I i ちょっとすまして
- J j 息をいっぱい
- K k 口の奥から
- L l 舌を歯ぐきに
- M m くちびるをとじて
- N n くちびるをとじないで
- O o 口をたてに
- P p 口をとじてから
- Q q 口の奥から

R r くちびるをとうがらし  
 S s 歯をあわせて  
 T t 舌を歯ぐきに  
 U u びっくりして  
 V v くちびるをかんで  
 W w 胸にひびかせ  
 X x 笑うように  
 Y y 力を入れて  
 Z z 歯をあわせて

特に、以下のものは導入時の児童の混同を招きやすいので注意が必要である。  
 文字としては小文字の b と d, p と q, f と t が混同しやすい。  
 a, g, q, t は書体により微妙に字が異なると混同する。  
 また、発音としては、l, m, n が混同しやすい。

### 2文字子音 添付写真参照

基本的にアルファベット一文字ずつの場合と同様の方法で指導する。



絵と単語を表示する。後に、絵にあう音を選択させる。

ch [チュ] ----- 下を t の位置からはなして。chime, chin, bench, lunch  
 sh [シュ] ----- 口を突き出し息だけで。shop, shine, fish, dish,  
 ph [f] ----- f と同じで、下唇をかんで。elephant, cell phone  
 wh [hw] ----- 唇を突き出し、胸の奥から。whip, white, what, whale,  
 th [ス] ----- 舌をはさんで息だけで。thin, thick, bath, math  
 th [ズ] ----- 下をはさんで声を出して。this, these, mother, father  
 ck [k] ----- k と同じ音。duck, sock, kick, pick  
 ng [ング] ---- 鼻に抜かして1つの音。king, ring, sing, wing

### 母音を含む2文字

ai, ay [ei]----- a だけアルファベット読み。chain, rain, train, mail  
 ea, ee, ey [i:] -- e だけアルファベット読み。tea, sea, peach, feet, tree, sheep, key,  
 monkey  
 ou, [au] ----- house  
 oa, oe, ow [ou] - o だけアルファベット読み。boat, coat, toe, doe, snow, window

ui, ue [u:] ----- u だけアルファベット読み。 suit, fruit, blue, glue,  
 ie [ai] ----- i だけアルファベット読み。 pie, tie, die

### 連続子音

間に母音を入れないで、つなげてすばやく読む。ローマ字の影響を受けやすいところなので、母音が入らないように注意する。

cl, gl, pl, bl, fl ----- clock, glass, plane, black, flag  
 cr, gr, pr, br, fr, tr, dr ----- crab, grass, prize, brush, frog, truck, drink  
 sn, sm, sp, st ----- snake, smile, spin, stop  
 sk, sl, sw, tw ----- skip, slide, swim, twins

### 2 文字母音

au, aw [o:] ----- 口をあけてそのまま発音。 August, sauce, Paul, saw, draw  
 ou, ow [au] ----- はじめを強く、ふたつめをそっと。 house, mouse, mouth, cow, now  
 oi, oy [oi] ----- はじめを強く、ふたつめをそっと。 boil, coin, point, boy, toy, enjoy  
 oo [u:] ----- 口の奥から長く、強く。 moon, spoon, room, pool  
 oo [u] ----- 口の奥から短く、軽く。 book, cook, look, foot

絵カードの絵の下に、単語をうめさせる

ou or ow

1 回目は guess で。 出来なければ u か w の hand gesture をあげる。

## 5. 読み書き障害(ディスレクシア)の特徴と英語指導法 (参考文献より抜粋)

- 日によってかえっらの学習の出来なさは一様ではない。ある日は読みが出来るが、別の日は自分の名前を書くこともやっとなんかということもある。
- 単語の音の構造を理解することが出来ない。
- 典型的な発音の間違ひは、単語の最初の音を飛ばす(spaghetti → pisgetti, elephant → lephant)、真ん中の音を逆にする(animal → aminal)など。
- 選択肢を与えられれば、ディスレクシアの子供はほぼ間違いなく正しい単語を見つけることができるが、ある概念を与えられてそれを表す単語は(てっぺんに穴が開いている山で穴から日や煙が出てくるものは)という聞き方をすると、音は似ているが別の単語を言う。あるいは、volcano(火山)は読めず、火山の絵を見て音の似た tornado と言ってしまう。これではあてすっぽうにいつているか、混乱しているようにしか見えない。しかし、volcano と聞いて、その意味を説明することができる。つまり、×概念を聞いてその単語を発音することはできない。単語が読めない。但し、○単語を聞いて意味・概念を正しく説明できる。) これらが示すことは、ディスレクシアの子が持っているのは音韻的なミスであり、単語が出てこないだけで意味は理解していることを示している。
- 一般に、児童が正確かつ流暢に読めるようになるには、知っている単語を詳細かつ完全な形で記憶し、それを蓄積することが必要である。ディスレクシアの人は、普通の人より長期間にわ

たって活字に何度も何度も触れる機会がないと、そうした蓄積モデルが明瞭かつ正確なものにはならない。

- ディスレキシアの児童にフォニックス指導は有効かということに関してははっきりとした検査結果は無い。小さいころから英語の音に慣れている子供は、フォニックスを利用して単語を読みやすくなる。しかし、英語をもともと知らず、聞いても単語がわからなければ、フォニックスを使っても混乱するだけかもしれない。指導してみて読みに入りやすいかどうかで決めていくほかない。[筆者の担当の子は、LD が疑われるが、今のところアルファベットカードをつかったアルファベットおよび音の学習には興味を示している。但し、いまだに小文字の習得が出来ておらず、単語を一人で読むことは困難である。]
- 他の学習と同じように、こどもが積極的に取り組めるよう仕向け、練習は短時間で楽しくおこなう。興味がなさそうだったら無理維持しないこと。集中力があり、機嫌がいいときにするよう努める。

## 6. 流暢に読むためのトレーニング

- ① スピード単語リーディング—目的は返答スピードを速くすること。単語を口に出すのに時間制限を設け、制限時間をどんどん短くして行って、最終的に読むスピードを上げる。目標は一つの単語につき一秒以内で答えること。
- ② すべての人が流暢に読めるようになる最も効果的な方法は、声に出して繰り返し読ませ、それに対して講師がフィードバックおよび指導を行う方法である。この取組では一般に過剰学習が原則である。つまり、わざわざ注意を払ったり、意識的に考えたりする必要がないほどに何かを身につけ、それを当たり前にしてしまうことだ。どんな分野であっても、自動的に何かができるようになるためには、過剰学習が必要だ。何度も繰り返し訓練し、練習した成果として自動的にできるようになる。流暢さのトレーニングも、スポーツに対して努力するように取り組むべきだ。このトレーニングでは、高度に安定した、正確な神経回路パターンを構築することに集中する。但し、流暢に読める前に正確に読める必要があることは忘れずに。
  - 一回のトレーニングにかける時間は一日数分間で良い
  - 毎日欠かさず行い、数週間、もしくは数ヶ月間続ける
  - 生徒が既にデコーディングでき、かなり精度で読める文章で練習する
  - (英語が母国語の場合、目安としては 20 語の内読めない単語が 1 語あるかないかの程度のものを選ぶ)
  - 同じ文章を最低でも 4 回読む (1 回のトレーニングで 4 回読むということではなく、全体で同じ文章を読むのは 4 回以上。同レベルの文章をいくつか用意しておく)
  - 生徒から進歩が目に見えるようにグラフで表す
  - フィードバックを継続的に行う

### (参考) 英語圏における音素認識指導とは

英語圏の英単語指導においては、フォニックス指導の前に、音素認識の段階があることは最初に述べた。これはネイティブに関するものなので、まったく始めて英語に触れる日本人の児童にはその

まま当てはまらない。しかし、③などはフォニックス野中で、あるいは間何ナノ地が、参考になるところもあるように思うので、一部を要約、抜粋する。

- ① 音素認識はまず、言葉が韻を踏むことを認識させることから始まる。例えば、同じ発音で終わることば (fig, jig) や同じ発音で始まる言葉 (click, clack, clock) を並べ、韻の部分に注意を向ける。そうすることで、言葉がパーツで出来ていることを子供は認識する。韻を踏むところを強調して読むと、効果的である。
- ② 単語を音節に分ける。音節は単語を構成する音の最も大きな単位であり、比較的特定しやすく扱いやすい。方法は、単語や人の名をいいながら、手をたたいて音節を数える。(Jay-son は 2 回、Jon-a-son は 3 回、cow-boy は 2 回) 手をたたいた数が音節であることを認識させる。
- ③ 音節を音素に分解する。単語がさらに細かい単位である音素に分けられるようことを認識するのは、こども、とりわけディスレクシアの子には難しい。効果的な方法は、異なる単語の音を比べたり、一致を見つける練習である。例えば、地図の絵を描いたカードを見せ、「これは mmmmap (地図) です」と、最初の mmm の音を長く伸ばして発音する。そして何の絵かを聞く。map という答を引き出したら。map の最初の音は mmmmm です。いえる? と子供に言わせて見る。それから、mmmm で始まるものも混ぜて絵カードを見せ、mmm で始まるものを選ばせる。また、dog の絵を指して読んだ後、部屋の中で他に d で始まるものはないか聞いてみる。

音を一致させることができるようになったら、単語を分解するという次の段階に進む準備が出来たと考えられる。最初は単語の頭の音、次に終わりの音、まんなかの音を分解する。このような練習を最初は話し言葉でおこない、後に書かれた単語を構成する文字と音を利用するゲームへと進む。

単語を分解する方法のひとつは、単語を聞かせながら音の数に合わせて手をたたかせるもの。例えば、sssss……eeee. sea いくつの音に聞こえるか手をたたいてみよう、と試してみる。eat, it, zoo などの二つの音素からなるものは比較的分解しやすいが、fan, map など三音素の単語には行き詰ってしまう子も多い。ゆっくり進むこと。

別の方法として、単語に音を付け足すものや (sea に t を付け足すと?)、単語から音を取り除くやり方 (seat から ssss の音をとると?) がある。

#### (参考) ディスレクシア児童への学習面での必要な支援など (参考文献より抜粋)

- 十分な時間と静かな環境
  - ・ 試験時間の延長
  - ・ 別室での受験
- 気が散りやすいので、整理整頓された環境で学習すると同時に、整理する習慣をつける
- 感覚器官すべてを使った学習
- 教科書の録音テープや CD の入手する
- 本を読む前に内容を把握する方法はないか (物語の映画など)
- 選択方式ではなく、論文形式・口頭プレゼンテーションの試験 (文脈に乏しい選択方式は不利。)
- 手書きは困難、ノートパソコンを利用する
- 講義を録音する

- 音韻的障害を知識不足と誤解されないように、「もう一度説明させてください」といおう

最後に、LD の子供たちを長期に渡ってリサーチした結果、健康な精神で満足した人生を送っている子供たちに共通するいくつかの一般的な要素が示されていたので紹介しておく。

- 問題解決能力がある
- 人生に少なくとも一人は、支援したり勇気付けたりする大人が存在する
- 高い自己概念（セルフ・コンセプト）と成功をもたらす特別な興味、あるいは能力が存在する
- 他の人を援助すること（ボランティア活動等）に参加している